

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成25年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、発生予察注意報第1号（普通期水稻のトビイロウンカ）を發表します。

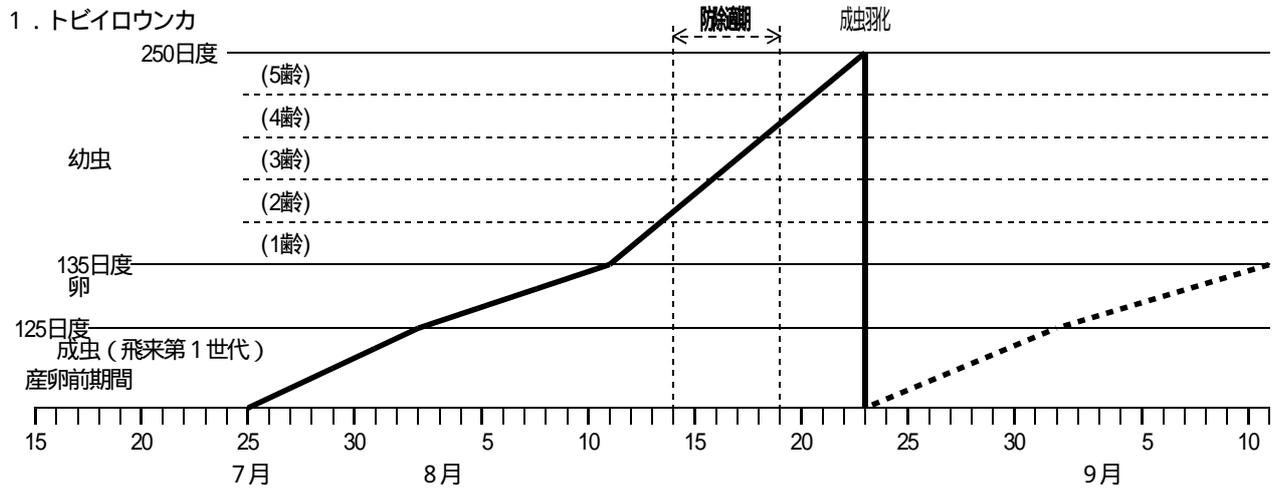
## 病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 普通期水稻
- 2 病害虫名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 普通期水稻栽培地帯
- 4 発生量 多
- 5 発生状況及び注意報発令の根拠
  - (1) 8月1～6日に行った巡回調査(調査ほ場数62ほ場)での発生ほ場率は55%(平年39%)と平年並であったが(表1)、トビイロウンカ発生ほ場のうち、約91%のほ場で短翅型雌成虫が認められ、その発生密度の平均は0.11頭/株であった。
  - (2) 短翅型雌成虫が認められたほ場のうち、約41%のほ場で要防除水準(8月上旬:0.2頭/株)を超えていた。
  - (3) 今回の調査で認められた成虫は、6月26日飛来虫に由来する飛来第1世代成虫と推察され、今後、飛来第2世代の多発生が予想される。
  - (4) 向こう1か月の天候予報では、九州南部の平均気温は高いと予想されており、トビイロウンカの増殖に好適な条件が見込まれる(鹿児島地方气象台 8月2日発表)。
- 6 防除の考え方
  - (1) 6月26日飛来虫の飛来第2世代幼虫の防除適期(幼虫ふ化揃い期)は、8月14～19日頃と予想される(参考資料の発生経過予測図を参照)。
- 7 防除上注意すべき事項
  - (1) 本年は、既に要防除水準に達しているほ場の割合が高い。トビイロウンカは増殖率が非常に高く、8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる恐れがある。近年では坪枯れ被害が多発した平成17年や21年の発生に類似するとみられる。
  - (2) 本種は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように行う。
  - (3) ほ場では各虫態が混在しているので、防除を実施したあとも、その後の発生に十分注意する。また、ほ場内の分布にはムラがあるので、ほ場全体の発生状況を確認する。
  - (4) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

## トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2013年8月7日 作成



(注) 気温の低い地域では、本予測より数日程度遅くなる。

表1 トビイロウンカの発生状況 (調査日：8月1～6日)

地域名	発生ほ場率(%)		調査ほ場数
	本年	平年	
南薩	10	50	10
北薩平坦	46	43	24
北薩山間	77	36	22
大隅	67	29	6
県計(平均)	55	39	62

平年は2006年～2012年までの平均値。

巡回調査地点

南薩：南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目  
 日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦：鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田  
 霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町  
 出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田  
 薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間：さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手  
 伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・大田・山野，湧水町北方

大隅：曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里